

オンデマンドサービスについて

市民部市民生活課

1 事業の目的

住民票の写し等の証明書交付について、取得場所や利用時間等を拡大し、市民ニーズにオンデマンドに対応する。

2 事業の内容

平成 20 年 4 月 1 日から全区役所など市内 8 箇所で自動交付機による各種証明書の交付サービスを実施しており、平成 23 年 4 月 1 日からは手数料を引き下げ、利用拡大を図っている。この 3 ヶ月間の実績は前年比約 3 倍強の交付実績となっている。

今後、更に利用場所や利用時間などの条件を拡大し、市民ニーズにオンデマンドに対応するため、コンビニエンスストアでの証明書交付システムの構築を図る。

3 改修スケジュール

平成 24 年度 コンビニ交付対応自動交付システム他改修基本検討

平成 25 年度 システム設計・機器調達・構築・サービス開始

4 考慮した事項

- ・ 1 現行自動交付機システム機器更新を勘案した機器調達、システム改修
- ・ 2 住基ネットでの外国人住民票コード利用、住基カード発行等運用時期勘案

5 課題

- ・ 社会保障番号導入による住民基本台帳カード機能見直しの動向の勘案
- ・ 外部環境との接続に伴うセキュリティー確保
- ・ 土日証明窓口交付サービス、広域証明交付サービス他の在り方の検討と整理
- ・ コンビニ交付に対応するための住基カード普及拡大

【協議要旨】

- ◆ IT システムを廉価に導入した他都市の事例を研究し、コンビニ交付の導入及び自動交付機更新の時期と経費を再検討する。
- ◆ 行政情報系の基幹システムと切り離れた交付サービスの仕組みについて検討する。

(仮称) 北部地域図書館建設事業について

市民部中央図書館

事業目的

図書館サービスが手薄となっている北部地域（都田、新都田、三方原地区）に生涯学習の拠点として新たな地区図書館を建設し、地域住民の要望に応えとともに全市的な図書館サービスの均一化と拡充を図る。

地区図書館としてのコンセプト

地域の情報拠点、地域の読書施設、地域の生涯学習を支援する役割を持ち、併せて地域住民の生活に役立つ機能を備えていることを全面に出した図書館とする。

北部地域の特徴

- ・山間地（都田、滝沢、鷲沢）を含む広範囲な地域であるが、新都田地区、三方原町に住宅が集中しており、主要道路が整備されているため交通の便も良い

図書館の特徴

- ・ユニバーサルデザインに配慮した平屋建ての図書館
- ・課題解決支援機能（医療情報コーナー、法律情報コーナー、仕事と暮らしに役立つコーナー等）を充実させた図書館
- ・児童書コーナーを充実させ、子育て支援にも配慮した図書館

想定規模

平成9年に開館した可新図書館の規模とほぼ同じ。

【協議要旨】

- ◆ 候補地を検討し調整を図っていく。
- ◆ 需要を見極めて、施設の規模を検討する。

天竜体育館改修工事について

市民部スポーツ振興課

1 目的・背景

現天竜体育館は、昭和47年3月の建設以来39年が経過しており、老朽化による雨漏りや洋式トイレの不足、更衣室がないなど様々な支障を抱えている。このことから、新市建設計画では、新たに総合スポーツセンターを建設する予定であったが、その後の見直しにより、現有施設のリニューアルを行い、継続使用することとした。

天竜区内には、バレーボールコート2面がとれる総合体育館は、天竜体育館と水窪総合体育館のみであり、この地域にとって必要な施設であることから、可能な限り早期に着工したい。

2 事業内容

(1)現在の建物構造、規模

鋼管構造一部鉄筋コンクリート造平屋建て 1,393 m²

(2)工事の内容

耐震補強工事 屋根の葺き替え 内外壁の改修 床の張替え
トイレ、事務室の改修 更衣室の設置

【協議要旨】

◆ 耐震工事に加え、改修工事を行い、地域のスポーツ中核施設として活用する。

1 目的・事業概要

浜北区根堅の篠場瓦窯跡は白鳳時代(7世紀末頃)の古代寺院の瓦を焼いた窯跡で、第二東名高速道路建設に係る発掘調査で発見された。国史跡級との評価を得たが、高速道路用地内のため現地保存が不可能となった。そこで発掘調査を実施した静岡県教育委員会が瓦窯の表面を剥ぎ取り、窯跡の復元品を製作した。この窯跡復元品は県から市へ長期借用され、市の倉庫に仮保管中である。浜松市が公開する場合は、県指定文化財級の出土瓦類もあわせて市へ無償譲渡される見込である。

篠場瓦窯跡及び出土品は、浜松市にとっても当時の最先端技術を駆使した瓦窯として全国に誇りえる貴重な文化財であり、「ものづくりのまち」浜松の原点として、地元で市民に公開する意義は大きい。そこで出土地に近く、瓦窯と同時代(万葉の時代)をテーマとする「万葉の森公園」を復元品の移設先として計画し、万葉集と同時期の窯跡や出土瓦類を展示公開する。これにより市民の万葉文化や地域の歴史に対する関心や愛着を深めようとするものである。

なお万葉の森公園には、現在、万葉文化を示す同時代の実物資料が皆無である。篠場瓦窯跡の移設によって、浜松の万葉文化を全国的にアピールする同公園の情報発信拠点としての内容充実・魅力アップを図る。そして瓦窯跡に関連する講座や体験学習事業の充実を図ることにより、集客力の増加も期待できる。さらに万葉の森公園の充実は、万葉の森公園を拠点施設と位置づける「遠州山辺の道」(浜北区内野から天竜区鹿島に至る文化財散策ルート)事業の活性化にもつながると考える。

2 内 容

篠場瓦窯跡展示施設の新築工事(万葉の森公園敷地内)

(展示施設新築・窯跡運搬設置・サイン整備 ほか)

篠場瓦窯跡出土遺物展示に伴う万葉資料館の改装工事

(展示ケース新設・出土品の展示 ほか)

活用事業(パンフレット作成、講座、瓦製作体験・瓦拓本実習等の体験学習)



篠場瓦窯跡



出土した軒丸瓦



出土した鴟尾しび(大棟の端を飾る瓦)

【協議要旨】

- ◆ 展示の場所、方法及び事業費を再検討する。